

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>

● このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています
● 本誌の内容を、許可なく無断で複製・転載することを禁じます

今春、私たちは「銀座デザインルール」を発行しました。銀座には「自分たちのことは自分たちで話し合っ

その精神を大切に、これからも銀座らしさを育ててゆくために、地域ルールとデザイン協議をどのように考えていけばいいのでしょうか。



銀座の街並みを考える 6 地域ルールとデザイン協議

二シンプジウムの議事録冊子作成中です

2月8日(月)、「地域ルールとデザイン協議」と題し、約190名の参加者を集めてシンプジウムを開催いたしました。福原義春・資生堂名誉会長(前銀座通運業公会長)、「JYの基調講演のタイトルは「銀座まがひの文化と精神」。

福原さんは、明治期から現在に至る銀座の歴史とコンセプト、銀座と深い関わりを持ちながら発展してきた企業である資生堂の歴史を丁寧にもとまながら、銀座という街の特徴を描き出してくださいました。

資生堂創業者である福原有信さんの妻とくさんがおっしゃったという「皆様のおかげで銀座があり、銀座があるおかげで資生堂がある」という言葉が、銀座の商売と街との関わりを象徴しています。銀座は、新参者を拒まず、自治の精神を持って、表通りと裏通りが縫い合わされた織物のような「面」となって、多様性を生み出してきました。これが特徴です。

また銀座は、しっかりとコンセプトとそのためインフラを整え、そこに文化と経済が共に発展する「場」が生まれるという代表例です。銀座には国家的な初期コンセプトがあり、その後、商店主や企業・お客様や従業員による自律的な営みが、

文化と経済の相互的な影響と発展の「場」をつくりだし、魅力ある地域をつくりだしたのです。今後は、まちづくりを担う後継者たちが、グランドデザインを社会の変化に対応させながらいかに磨き上げ、コンセプトを具体化できるかにかかっています。人々は、お金だけで幸せは満たされないことを知りました。経済は、モノと貨幣の交換を基本原理とした「サービスタイプ経済」から、人間対人間を基本原理とする「ホスピタリティ経済」へと移行していきます。「JYにいてほしいとする」「JYで買いたい」という気持ちで経済が活性化され、もてなす側の欲望ではなく、もてなされる側の喜びで市場が生まれるのです。

続くパネルディスカッションでは、最初に野澤太一郎さん(旧神戸居留地連絡協議会会長)から旧神戸居留地におけるまちづくりの事例を具体的にお話いただきました。旧神戸居留地は慶應3年に開港した外国人居留地に端を発し、街路や区割は今もそのままです。また古い建物もたくさん残っています。阪神淡路大震災をきっかけに、街並みづくりに取り組み始めました。「復興計画」「まちづくりガイドライン」「広

告物ガイドライン」を作成し、まちづくりの方向と基準を定めることも、その考え方に基いた広告物設置や街並みづくりをしています。次に、小林博人さん(慶應義塾大学准教授)が銀座デザイン協議会の現状を報告しました。現在までに銀座デザイン協議会で取り扱った案件は建築物と工作物その他で162件。今後の課題として、広告の多様化への考え方、建築ファサードデザインと広告との関係、交通問題(自転車)、駐車場問題(荷捌き・身障者用駐車場設置)、銀座において維持・継承・創造していくべき文化について、等があげられました。

中井検裕さん(東京工業大学教授)からは、2つの事例の共通点として、①背景に地区計画のようなしっかりとした枠組みがあること②ルールがゆるやかなので、新しいものを受け入れ協議しながら少しずつ変えていくことができる③考え方が明文化され地域情報として発信されている、という3点が指摘されました。また、協議で積み上げられた情報を蓄積し、評価に示された上で、ルールにフィードバックすることが大切である、そのためには常に、まちの声にアンテナを立てておくべき、と指摘しました。最後に、「コーディネーターの義原敬さん(都市プランナー)は、「デザイン協議会の仕組みは、中央区の思い切った柔軟な対応があって初めて成り立っている。このような仕組みが普通に行えるような制度改革を期待したい」というコメントでまとめました。参加者の皆様は最後まで熱心に聞き入り、活発な質疑が交わされました。